

≪第7分科会≫

(テーマ) またやってみたい 明日につながる保育

～一人一人が主体的に遊ぶための環境や援助について考える～

(発表園) 認定こども園鳥取第五幼稚園

発表者 永原 美紀 (認定こども園鳥取第五幼稚園)

指導助言者 大高美穂子 (鳥取市立福部未来学園 副校長)

司会者 横山美代子 (認定こども園鳥取第五幼稚園)

記録者 西口久美子 (認定こども園鳥取第五幼稚園)

山口 珠里 (認定こども園鳥取第五幼稚園)

～研修レポートのまとめ～

【本研修会を受講して学んだことについて】

環境構成(物的環境)

- ・環境を構成するには、子ども達の遊びの継続や発展の中で行うことが重要である。
- ・大改革をするのではなく今の状況から工夫することで、子ども達も安心して遊ぶことができるのだと思った。
- ・各年齢によって遊びの姿は異なるため、環境を変えることも大切
- ・遊びのきっかけとなるものを準備する。
- ・「環境」とは、時間、空間、もの、人、保育者など様々な要因が関わっている。
- ・環境教育とは、子どもたちが関心を持って取り組み、様々な試行錯誤を経て、環境へのふさわしい関わり方を身につけていく教育のことである。
- ・日々の保育の中でも意識していけないといけない大切なことだと感じた。その為には、子どもたちが今どんなことに興味を持ち、どんなことを発見し試そうとしているのか観察し、必要な材料や環境を提供し整えることで、子どもたちの探求心、好奇心が膨らみ、さらに意欲を深めながら遊びを継続していけるのだと改めて学んだ。
- ・子ども達の遊びをしっかりと把握しながら、環境を整えていく。その日その時だけで遊びが切れるのではなく、継続させていけるような工夫も大事である。
- ・子どもたちが活動を選択できるような環境を作っていく事が大事。
- ・道具置き場の棚を木材を使って子どもたち自身で作り上げることで環境に対する意識が高まる事に感動した。
- ・環境は「何があるか」よりも「これらで何を体験するのか」に着目していくことが充実した遊びに繋がる。

- ・子ども達の遊びが広がり、そして次の遊びに繋がっていくことの実例がとても勉強になった。また、園の特色、その地域ならではの自然環境を十分に生かし、工夫することの大切さを学んだ。
- ・子どもの遊びに必要な用具を保育教諭自身が作ることで、子ども達がどのように遊びを展開していくかしっかり見ようとする気持ちが大いに育つ…安全面にもしっかり配慮することができる。竹や木の資源を使って用具を作っていること。
- ・遊びの動線を考えてコーナーを作ることで、子どもたちも集中して遊びの中に入り込むことができる。
- ・子どもたちの興味・関心に合わせて様々な遊び道具を用意することで、その子なりの遊び方や、遊びが広がっていくきっかけとなる。
- ・遊びの環境や道具などを保育教諭自身が試行錯誤していくことで、意識や主体性が高まり、子どもたちの小さな変化にも気づくことに繋がっていた。
- ・子どもたちの遊びを見守り、観察しながら遊びの環境を整えていく必要性を感じた。
- ・園の環境の良さが活かされた保育が展開されていた。
- ・丸太一つで子どもの遊びの可能性が広がっていくことを実践事例の中で知ることができ、今の子どもの姿、子どもの育ててほしい姿をしっかりと考え教材として出していく大切さを学びました。
- ・子ども達の興味関心に沿った物的環境が、さまざまな子ども達の育ちを支えている。「心揺さぶる体験」が、遊びの経験や学びのきっかけに繋がりがやすい。
- ・環境づくりとして、子どもたちの遊びの様子から、保育者も一緒に環境を整えていくことが大切である必要な環境は適切なタイミングで用意する。
- ・活動するときや環境づくりを行う際は、10の姿に照らし合わせることで明確な育ちをみることが出来る。
- ・遊びの環境の設定により、子どもたちの遊びへの興味が広がり、“もっとしたい”という意欲を持つことに繋がることを改めて考えることができた。継続した遊びを楽しむことで試行錯誤を繰り返し、子どもたちの発見や気づきに繋がり、いろいろなアイデアが生まれることで、遊びが広がっていくことも学んだ。
- ・環境の設定の仕方子どもたちの遊びが変化していくことを改めて考え、子どもたちがどのような遊びに興味を持っているか等、今の子どもたちの姿をしっかりと見極め、遊びに繋げていくことも大事なことだと感じた。
- ・鳥取第五幼稚園の発表を拝見し、子ども達が主体的に遊び出す、遊び込む環境構成の見直しの重要性を改めて感じた。
- ・保育教諭だけの思いだけでなく、子どもとの会話の中でどんな環境にするのか。研究を通して子どもと保育教諭と一緒にワクワク・ドキドキしながら環境を整えていくことで、より良い環境づくりへの意識が高まっていったこと。
- ・園庭環境について把握し、子どもの実態と照らし合わせて環境を整えていく。
- ・試行錯誤しながら環境を整えることで環境に対する意識が高まる。
- ・遊びが発展するであろう用具や材料の確保や準備をすることの大切さ。遊びの動線を考えた環境の構成や用具の置き方の工夫をすることで子どもたちが遊びに入りやすく遊びこめることができる。
- ・遊びが発展するために用具や材料の用意も豊富に用意することで子ども達が遊びやすく、遊びこめることがわかった。

- ・環境構成を行う中でも、“何を用意するか”ではなく、“それらで何を経験するのか”にも着目する事の大切さを感じた。
- ・充実した保育を行なっていくためには、子どもたちだけでなく、保育者自身がその環境に対して興味や探究心を持ち、試行錯誤しながら関わるのがとても大切であると感じた。
- ・テーマにあるように『また やってみたい』と子どもが感じる遊びこそ大切なのではないかと思う。どんな活動に対しても保育者は遊びのきっかけとなる物の準備、環境の整備が大切である。一つの遊びでも子ども一人ひとりによって使う道具、遊びの進め方は違う。だからこそ保育者は、子どもに寄り添い気持ちを受け入れその子のタイミングで遊びを進める事が必要になってくるのではないかと思う。
- ・環境設定を整える中で、園庭にあったら良いものを子ども達と一緒に集めるという取り組みがとても楽しそうだと感じた。散歩に行き行って拾ったドングリや家から持ってきた物等、子ども達が愛着をもって遊べる最初のきっかけになると感じた。そして、そこから自由に水が使えたり、花壇や畑を子ども達と作って花や木の実を使って自由に遊べる空間を作った事で、子ども達の遊びの選択が大きく増えていったように思った。また、先生方が丸太を加工して遊べるように工夫されていた。並べたりお皿にして砂場遊びで使ったりと、子ども達の発想が広がっていくきっかけになる材料になったのが分かった。繰り返し遊んでいく事で子ども達は続きからしたかったり、新しいものを作りたくなったりと、それもまた子ども達が選択できる自由が生まれるきっかけになったと思う。
- ・子ども達のよりよい遊びの環境を作るためには、保育教諭の事前に行う環境構成がとても重要だということに改めて感じた。
- ・園庭の長所と課題を探ることで、遊びの環境の中で必要なものが明確になっている。
- ・子どもたち自身が遊びの中で新しい発見や気づきができるような環境構成をあらかじめ保育者がしておくことも大切なことだと感じた。そこから更に子どもたち自身で遊びを発展させていくことができ、子どもの成長や自信にも繋がるので環境構成はしっかり考えていかなければならないと思った。
- ・子ども達が意欲的に遊ぶ為には、保育教諭が遊びの様子をしっかり見て、タイミングよく必要な環境を準備する事が重要だと改めて学ぶ事ができた。
- ・この研究発表を見て、子どもたちの遊んでいる姿からどのような道具や用具を子どもの見えるところに置いておこうかなどの環境設定を考えることを楽しんでいるように感じた。また、一気に変えようとするのではなく、子どもたちの遊ぶ様子を見て少しずつ環境を整えていくことで無駄が減り、子どもたちが主体的に遊ぼうとし「明日もやってみたい」気持ちにつながる事が分かった。
- ・まっさらな状態で遊んでも中々遊びは広がらないので、自然物や戸外あそびならではの物を取り入れることでどんどん遊びも広がり、学年が上がっていくごとに工夫して遊ぶようになるのだと感じた。
- ・広い園庭や自然体験を多く取り入れて遊べる環境からその全てを改革するのではなく、子どもたちの様子を見ながら環境を整えていた。
- ・環境構成を見直すことで子どもたちの遊びが広がり、その時に必要なものが見え整えていくことにより遊びの継続が可能となり、子どもたちの様子を見ながら進めていくことは大切だということが分かった。
- ・明日に期待が持ち、主体的な遊びが広がるような環境作りの大切さ。子どもの発想や工夫を実現できるような環境。

- ・子どもの姿を見て、保育環境を変え構成していくこと。子どもの好奇心を止めないように適切なタイミングで与えていくことで、遊びの充実につながる事。
- ・遊びにマニュアルはないので、子どもの姿・興味関心から遊びが発展していくように、時間や空間にゆとりを持って、柔軟に対応し、園児の活動が精選されるような環境構成をしっかりと行っていかなければいけないなと思った。
- ・環境には人的環境と物的環境があるが、しっかり整えていくことの大切さを痛感した。教科書やマニュアルがなく、勿論正解やこれといった答えがあるわけではないので、適切な環境を整えて満足感や充実感を味わうことができる経験がたいせつだと思う。

職員間（共通理解 情報共有）

- ・今ある環境から、何が必要かなど職員で共通理解をし、進めていくことの大切さを感じた。
- ・保育者同士が同じ方向をむいて、子どもの姿をはっきりし、教育しないといけない。
- ・職員全員で共通理解をしたり、協力して取り組んでおられる様子がよくわかった。
- ・「一人一人が主体的に遊ぶための 環境や援助について考える」ということで、まずは、どういう姿が主体的な姿とはどういう姿なのか、職員で共通理解をされていたということで、どういう姿を目指していきたいのか、話し合い、具体的にしていくこと、そこへ向かっていくための保育環境がどのようなものか考えられていた。当たり前のことではあるが、この職員で話し合い、共通理解をしていく大切さを改めて感じた。
- ・職員全体で話し合い、PDCA サイクルを取り入れ、情報共有をしながら、子ども達にとってよい環境を整えられたのは素晴らしいことだと思った。日頃から課題に向き合い、子ども達の様子を伝え合い情報共有していく中から、見えてくるものがあるので、子供達の興味に合わせた環境づくりによって子ども達の遊びや学びに影響してくると思った。
- ・環境を整える上で、園内の実態と具体的な改善の仕方を園全体で考えておられ、どんなことから始めたらいいのだろう？という疑問にとっても参考となる講演だった。
- ・保育者が何人もいる中で一人ひとりの考え方や見方は全く一緒ではない。そのためそれぞれの意見を伝え合うことが大切だと感じた。意見を言い合いお互いのことを高めあっていくことができると保育者同士の繋がりもより深いものになっていくため、連携や協力がしやすくなり、子どもの過ごす環境を良くしていくことに繋がっていくのだと感じた。
- ・定期的に保育士、教諭同士で情報共有・理解を行う事の大切さを改めて感じた。
- ・子ども達の遊びを充実させるために、毎日遊んでいる環境の見直しを行ったり、改善点や良い点について職員間で話し合っ共有したりとされていて、とても大切なことだなと思った。
- ・自分一人で考えて環境を変化するだけでなく、園全体で共通理解し、一緒に考え一緒にやっていくことで縦の繋がりや子ども達の成長に関わっていくことが分かった。
- ・職員で話し合いをしっかりと行い、共通理解した上で保育にあたることは当たり前のことだが、園全体の子ども達一人ひとりの育ちに重要になることを改めて感じた。

- ・研究テーマや目指す子どもの姿など、職員同士で考えを話し合い、「保育環境はこうしたい」との思いが保育に生かされている。
- ・一人ひとりの幼児にどのような体験が必要かを考え、遊びの提案をすることが大事であるということ、問題や提案内容は保育者間で共有することが大切であるということ学んだ。
- ・子どもたちが主体的に遊ぶための環境づくりや援助を行う上での、保育者の意識や職員間での話し合いの大切さを学んだ。
- ・先生方が、連携をして園の環境を整えるためにそれぞれ考えているところが、園全体で子どもたちを見ていこうという姿勢が見えてとても良かった。
- ・その日の子どもの姿や遊びの様子を情報共有を行い、次の環境づくりに活かしていくことで、こどもたちの興味関心や好奇心が途切れずに遊ぶことで出来ることを学んだ。
- ・イメージは持っているけれども、実はきちんと理解できていなかったり、職員間で共通理解ができていない文章や言葉がたくさんあるのではないかということに気付き、深く理解することや職員間で共通の認識をもって取り組むことの大切さも学んだ。
- ・子どもたちの生きる力を育むための保育への取り組みの一環として、園庭での遊びの中で子どもたちが主体的に活動するためにはどのような工夫をしたらいいのかについて、各年齢ごとに考えられていることや職員間での検討、具体的な方法について学ぶことができた。また外遊びの際に子ども達がより発展的に集中して遊ぶために何が必要か考え、職員間で話し合いをしたり共通認識を持つておくことの重要性についても学ぶことができた。
- ・保育者が子ども達の『またやってみよう』『やってみよう』という主体性を引き出す環境づくりの為に、話し合い、共通理解のもとに楽しく取り組んでおられるように感じた。
- ・1つの項目に対して全体で情報共有をしたり表にしてまとめたりすることで今後の動きや新しい発見が見つかり保育者にとっても学びに繋がると思い、真似したいと思った。
- ・子ども達が遊ぶ環境を整え、実際に遊んでみた結果を元に、遊びを発展させるには何が必要か職員全体で共通理解し環境を再構成していくことが重要だと学んだ。
- ・環境を整えるためには、育てたい子どもの姿から考えるだけでなく、職員間で共通理解をもって取り組むことが大切であると感じた。
- ・子どもたちが学年問わず共通して遊ぶ環境だからこそ、保育者同士の連携や子どもの姿の共通理解が重要となるのだと思う。どの学年も充実させるという着目点、自分の中でも大事にしたいと思った。園庭だけでなく、園舎内も同じように捉えて共通理解し合いながら、保育環境を整えていきたいと思う。
- ・環境の長所と課題を保育士間で話し合い、長所と課題を活かして遊びの環境の改善、充実を目指す
- ・保育士間で話し合い、情報共有していくことで、ねらいがぶれず、同じ方向性で保育を行うことができる。
- ・話し合う場を設けることで各年齢ごとの様子を他の職員と情報共有し、同じ方向性で保育を行うことができる。
- ・園庭環境、魅力ある園庭作りについて職員間で共通理解しながら進めていく中で、子どもたちの姿に変化があることなどの研究の仕方も参考になった。

- ・主体的な姿や主体的な遊びが広がる保育環境、また遊びが充実している姿を具体的にし、全職員で共通理解する事は、子ども達の姿を見取りやすくするだけでなく、次年度へ遊びを継続する事にも繋げていけると学ぶ事ができた。
- ・さらに園の全職員で共通理解することで何が必要で、何が目的なのかが明確になっていくことを再認識し、共通理解することの大切さを学んだ。
- ・職員同士が同じ方向性で研究をすすめていくことが子どもたちの保育を充実させることにつながっているのだと感じた。
- ・試行錯誤しながら環境を整えていくことで、保育教諭自身の主体性の育ちを育んでいくこと。

保育教諭の援助（人的環境）

- ・子どもの側に寄り添い、心情を読み取り、適切なタイミングで環境を用意できることが大切。
- ・子ども達が今、興味、関心を抱いている活動や様子を把握し、その姿に合わせた保育教諭の言葉かけや素材、教材など、日々の環境構成の考えていく必要性を学んだ。自分で考える姿や挑戦する姿、試行錯誤する姿、進めてみようとする姿など普段、すぐに手を差し伸べてしまいがちだが、そばで見守ったり、子ども達が主体的となって遊べるよう、今一度、自分の保育を見直してみたいと思った。
- ・また「やりたいことをやる」だけでなく、その子にとって必要なことなどを考え、展開していくことや、幼児の主体性と保育者の意図とのバランスをとることの大切さを学んだ。
- ・振り返りの大切さや、遊びを支える環境づくりなど、一人一人の園児に今、どんな体験が必要か、何に興味があるのか、何に意欲を示しているのか、何に行き詰まっているのかをよく感じ取っていくこと、何よりも保育者という人的環境が大切ということ学んだ。
- ・適切な環境とは保育者自身が努力して考えることが大切である。
- ・物的環境、人的環境の中で保育者が大きな割合をしめること。
- ・子ども達が主体的に活動出来るようにするために、保育教諭の援助や配慮が大切になってくることが改めてわかった。
- ・子ども達のつぶやきを聞き、そこから繋げていくことで遊びの充実にも繋がることができると感じた。
- ・場面場面での保育教諭の関わりが大切。すべてが欠けることなく繋がることで保育環境の充実になる。
- ・充実した遊びになるよう、子どもたちの遊びの様子を見て、今何が必要かどのような援助が適切かを考えながら、関わること大切さも感じる事ができた。
- ・子ども達の心に寄り添い、場面場面での気付きや子どもの声を遊びに活かしていくことが子ども達の心をくすぐり、より遊びが充実するものになるのだと再確認した。
- ・保育教諭が子どもたちに何を体験させたいのか、環境構成・援助をすることの重要性を感じた。
- ・子どもの主体的な遊びを整えるためには、物的環境と人的環境であることが分かった。環境を整えることを考えると、物の配置などが取り上げられることが多いが、保育教諭自身も子どもの成長に携わっていることが、事例や評価などを見て気づいた。
- ・試行錯誤しながら少しずつ環境を整え、子どもの小さな変化に気づき、援助や園庭づくりを行ってきたことで、子どもの成長の変化に気づくことができたのだと思った。

- ・何よりも保育者自身が最大の環境であることを、研究から導き出しておられたことが印象に残った。子どもたちの姿・心情を読み取る、育ちを的確に見取ることが環境づくりへ、そして子どもたちの育ちへつながることは理解しているが、それができているかどうかは育ちに大きく影響することを、あらためて考えさせられた。また、初めに、遊びの充実している姿とは、どのような姿のことを指すのかを具体的に考えておられ、これはとても大切なポイントだと感じた。
- ・保育者にとって、子どもたちの姿に寄り添い、思いを感じ取りながら、必要な環境を適切なタイミングで用意することも大切なことであると学んだ。
- ・環境づくりの中で、人的環境「保育者」が大切である。保育者がしっかりと考え、努力し進んでいく姿を子どもに見せることが大切である。
- ・保育者が望む姿からの一方的な環境構成や援助ではなく、しっかり目の前の子どもと向き合い、心情を読み取る中で、適切なタイミングで適切な援助を行う事の大切さを学んだ。
- ・「環境」には物的環境だけでなく、人的環境も含まれ、保育教諭や友だちの働きかけでも大きく遊びが変わっていくことも学んだ。
- ・子どもたちで遊びを発展させていくことももちろん必要な要素であるが、保育者自身が遊びのきっかけとなるような環境を設定することが必要になり、そこからみられる子どもたちの姿から適切な援助を考えていくことが大切になるという点。
- ・環境を整えて終わり、ではなく、これらで何を経験するのかを考えながら環境を考え援助していくことが大切だということを改めて学んだ。
- ・幼児の主体性と保育者の意図については、やりたいことだけやらせておくのではなく、この子には、どんな活動が必要なのか、どんな友だちが必要なのか考えながら保育をしていくことが大切だと思った。
- ・子どもの「できた」「うれしい」といった気持ちに共感し、できた時の達成感を味わえるようにする。何度も挑戦する姿を見守り、必要に応じて一緒に考えたり試してみたりする。
- ・保育者の「意図」と計画、場所、道具、友だちや保育者のかかわり方、タイミングなど、適切な援助を行う保育者集団になれたらと思う。
- ・教科書やマニュアルがない私たちの仕事は保育者の力にかかっているという言葉、何より人的環境が大事ということ学んだ。
- ・子どもたちへのアイデアを受け止め、必要に応じ手助けをすることで、考えたことを実現する嬉しさを感じる事が出来る。
- ・またやってみたい、明日へつながる保育として、環境を見直し整えていく中で、子どもたちだけではなく保育者自身も楽しんでおられた印象だった。子どもたちの今の思いを汲み取り関わることで遊びの広がり、遊びの継続、遊びの充実へ繋がっていたと感心した。
- ・「環境を通して行う教育」として素材、教材、空間、時間、自然現象など様々な環境があるが、その中にある・「教育的価値」を持たせるのが、人的環境の保育者、私たちなのだと再認識した。
- ・『保育者は、子どもにとって一番の(人的)環境』という言葉で気付かされた。環境構成と聞くと物的な物ばかりを想像するが、子どもにとって一番近くにいる保育者こそ大切な環境なのだ。

保育教諭の主体性 資質向上

- ・保育者が主体的に環境を作っていく事で、子どもの小さな変化にも気づけるようになる。
- ・環境を整えることは子どもたちの主体性を引き出すだけでなく、教諭の意欲も育つと学んだ。教諭が主体的に環境を考えることで活動に対する援助も考えられ、教諭もさらに活動を楽しむことが出来、子どもたちの意欲を引き出すことにも繋がると感じた。教諭は遊びを提供するだけでなく、どう遊びを広げていくか、どう育ってほしいかなど先々まで想像して用意していくべきだと感じた。
- ・第五幼稚園の取り組みを拝見させて頂き、環境が整うと子どもたちだけでなく教師の主体性も育まれる事がよくわかった。
- ・心揺さぶられる感動体験を通して遊びの充実を深めていきたい」ということで、今回、第五幼稚園さんは、園庭環境の見直しをされ、長所と課題を挙げ、そこから見える遊び環境の改善と充実ということで、今ある園庭の環境を生かしながら、より主体的な遊びが広がる保育環境づくりをされていた。今の保育環境を全職員で見直し長所と課題を明確にし、考えていくこと、試行錯誤し環境を整えていくことで、保育教諭自身の主体性の育ちも育まれていて、保育教諭の資質向上の大切さを改めて感じた。
- ・普段の遊びを見直すことで子ども達の興味や探究心を刺激し、試行錯誤や友達と楽しさを共有していること、環境づくりを楽しむスタイルが保育教諭自身の資質向上につながっていることを知ることができた。
- ・試行錯誤しながら環境を整えていくことで保育教諭自身の主体性も育つということも学ぶことができた。
- ・保育者自身がワクワク、ドキドキする保育を考え行っていくことが大切。
- ・日々の子どもの姿から環境構成を整えること、子ども主体となるためにまず保育士が主体性を持って保育に携わっていく
- ・保育教諭自身も楽しんで活動することがよりよい環境作りにつながっていることも学びました。
- ・PDCA サイクルをすることで、試行錯誤しながらの保育の積み重ねが職員の資質向上にもつながっている。
- ・子どもの最善の利益のために常に考えながら環境構成を行うことで保育教諭の資質が向上すること。また、子どもたちと一緒に考えることで子どもも大人も主体的になれることがわかった。
- ・PDCA を習慣化することによって個々の保育士の資質向上につながることを学ぶことが出来た。

子どもの育ち 学び 主体性 異年齢

- ・遊びが選択できる環境にすることで、自ら工夫して考えることになり、主体性をはぐくむことに繋がる。
- ・自分たちで素材を選んで遊具を作るなどの体験をすることで、ものを大切にしようとする心を育むことに繋がる
- ・保育者が、子どもと共にドキドキワクワクを経験しながら遊びを楽しむことが子どもの遊びの原動力となり、子どもの育ちにつながるということがよく分かる発表だった。

- ・自分で考えたことが実現する楽しさを経験することで、自信に繋がり、またやってみよう、次はこうしてみようと思えるようになり、主体的に遊べるようになるということを学んだ。
- ・つながる保育には、遊びを支える環境づくりが必要の改めて考えさせられた。砂場で意欲的に遊びを展開させたり、異年齢での関わりがあったりと、楽しそうに取り組んでいる姿が印象的で、つながりのある保育の大切さを感じた。
- ・計画的な環境の構成について重要なことは、園児の活動が精選されるような環境の構成をしていくことである。活動の結果だけでなく、一つひとつの活動の過程が子どもたちの意欲や態度を育てていく。また、子どもたちが興味のある活動を主体的に選び、没頭し、片付けることができる環境にする事が大切。
- ・子どもの姿や興味・関心から遊びが発展していくよう、時間や空間にゆとりをもち、柔軟に行っていくことができるよう考えながら、「子どもの主体性」と「保育教諭の意図」をバランスよく絡み合わせて成り立たせていけたらいいと思った。
- ・遊び場を共有する事で新しい豊かな遊びの経験が出来たり、遊びが壊されてしまった時の気持ちの切り替えや新しい遊びを作り出す楽しさを感じるなど、遊ぶ子どもたちや年齢で感じ方が様々で、個々の新たな学びや経験に繋がっている事を感じた。
- ・「健康な身体」「自立心」「言葉による伝え合い」「豊かな感性」は、心揺さぶる体験が遊びの経験や学びのきっかけにつながりやすいことを知りました。
- ・子どもが主体的に活動を進めていける適切な環境を作っていくことの大切さを改めて感じることができました。
- ・環境を変化させることをすべて保育教諭が行うのではなく、子どもも一緒に行う事で愛着をもち、遊びへの意欲につながる事。
- ・子ども達が主体的に遊びにかかわる為には、子どもたちの遊びの様子を見ながら環境を整えていく必要があることを再確認することができた。
- ・遊びの充実のためには、ドキドキワクワクの心が揺さぶられる感動体験が継続していくことで、遊びの広がりや主体性、遊び込めることに繋がる。
- ・継続した遊び環境で経験を積み重ねていくことで子どもたちのひらめき、工夫、試行錯誤に繋がる
また、経験を友達に伝えることで自尊心の向上にもなる
子どもたちが「やってみよう」と意欲的に活動に参加したり、遊んでいく中で「どうしたらいいんだろう」と考えたりするなど、主体性を持って取り組めるような環境構成が大切だと改めて感じた。また、遊びが断片的にならないよう継続的に楽しめるようにすることで、試行錯誤したり、目的を持って遊べる姿に繋がることも分かった。
- ・異年齢での遊びの中で刺激を受け、子ども達が育ちあう姿も見られるのだろうなとوراやましく思った。心揺さぶられる感動体験・遊びの充実の大切さを改めて学び、自園の環境を見直し、2学期からの保育に活かしたいと思った。
- ・主体的に遊ぶためには、「継続的な遊びが必要であること」「選択できる環境の中で目的をもって遊ぶことができること」が関係あり、切れ目のない保育はとても大切なことだと感じた。
- ・子どもたちの興味関心に沿った物的環境が子どもの育ちを、支えていた。心揺さぶる体験が遊びの経験や学びのきっかけにつながりやすい。

- ・主体的な遊びが広がる保育を行うためには、子どもたちの遊びの様子を見ながら環境を整えたり、試行錯誤しながら環境を整えることで、子どもが主体的に遊ぶことができる。
- ・改めて環境作りの大切さを学びました。保育者が考え準備することは簡単ですが、そうではなく、一人ひとりの子どもの姿や、つぶやき、興味関心などから、子どもと一緒に環境を作り上げていくことが、子どもの主体性を育てていくのだと感じました。
- ・子どもたちと一緒に作り上げた環境でする活動が、子どもにとって心揺さぶる体験となり、子どもたちの力を伸ばしていくのだと学ぶことができました。
- ・子どもたちが主体的に遊びを楽しむために長所や短所など課題を見つけること。課題点を見つけることで今後へ繋げていく改善点が明確に分かる。
- ・子どもたちのやってみよう、こうしたいという主体的な気持ちを大切にすることで、好奇心や探究心の育ちが見られたり、充実して遊びをじっくり楽しむ子どもたちの姿や継続した遊びの中でさらに工夫などをして、遊びを発展する姿が見られたりするということである。子どもたちのこういった遊びの経験が意欲や態度を育み、生きる力の基礎を培うことにつながるということも学んだ。
- ・園児の活動の過程が意欲や態度を育む生きる力の基礎を培うので、環境を通して保育をすることが大切だと分かった。
- ・選択できる環境の中で主体性に繋がる。自尊心の向上。
- ・環境を通して行う教育は、幼児の主体性と教師の意図がバランスよく絡み合って成り立つものであると学んだ。活動の主体は子どもであるため、子どもの普段の遊びの様子から、子どもたちが主体的な遊びが広がる保育環境を整えることが遊びの充実に繋がると思う。活動が生まれやすく、展開しやすいように環境を再構成していくと遊びが継続していく。継続した遊びの環境の経験の積み重ねていくことでひらめきや工夫、試行錯誤の子どもたちの考える力に繋がっていくと考える。
- ・「今」を大切にすることが未来に繋がるということも学んだ。今の積み重ねている経験は小学校、中学校、高校と学びの連続がある。繋がっているからこそ、幼児期の遊びを豊かにし様々な経験をすることが大切であることを学べた。遊びの経験を通して、積極的な環境への関わる意欲、主体的に関わる力が身につくため、「今」の遊びを大切に子どもと関わる必要があると思った。
- ・子ども一人ひとりが自分の興味があることに没頭していく中で、様々なことを考え、時には葛藤し、五感をしっかり使って遊ぶことの大切さを改めて学ぶことができた。
- ・環境構成を整える事が大切な事は分かっているが、その中で子どもがどのように成長していくか、遊びを持続させるためには何が必要で何が足りないかを保育者が考えていく事で遊びが発展し子どもの成長する姿が見れるのではないかと思う。
- ・保育者の環境設定や一人一人に合わせた声かけというのは、子ども達に「遊びたい」と思ってもらえる主体性を生み出す最大のきっかけになると分かった。遊びの中で子ども達同士で話をしながら遊びを展開していく社会性や、失敗しても繰り返し挑戦して完成するまで作ろうとする集中力・挑戦する力を遊びの中で伸ばしている姿を見て、本当に子ども達は楽しんで砂場遊びや川作りをしているのだと思った。選択できる環境を作る事で、主体性が育まれていく様子を見ることが出来ました。
- ・講義から学んだことは、子どもたちが自分で遊びを選択できる環境作りをすることが、心揺さぶられる感動体験へと繋がるということである。

- ・日々の遊びの積み重ねが試行錯誤や工夫する姿にもつながったように、継続してできる遊びだからこそその楽しさや経験があると感じた。
- ・子どもの年齢に合わせた保育環境での経験を積み重ねることが子どもの主体性に繋がる
- ・子どもと共にドキドキ、ワクワクを経験しながら遊びを楽しむことが遊びの原動力となり、子どもの育ちにつながっていく。
- ・年齢に応じた保育環境での経験を積み重ねることが、子どもの主体性に繋がる。
- ・驚きや発見を楽しむことで、さらに好奇心が高まり遊びへの意欲へと繋がっていく。
- ・遊び場を少し変えてみたり、遊びのきっかけとなるものを準備することで、子どもたちが自分で次の遊びを考えたり、遊びの場を準備する主体的な姿に繋がっていく。
- ・継続した遊びの環境で経験を積み重ねることで、工夫や試行錯誤の姿に繋がる。
- ・健康な心と体、自立心、言葉による伝え合い、豊かな感性は心揺さぶる体験が遊びの経験や学びのきっかけに繋がりやすい。
- ・乳幼児期の経験は小学校での勉強や生活に活かされる事を改めて知る事ができ、より一増、遊びの充実が子ども達のよりよい成長に繋がると意識する事ができた。
- ・今回の研修では、主体的な姿とは何か、保育者自身も主体的に関わる事の大切さ、それが子どもの育ちにも繋がっていくということを再認識する事ができた。
- ・保育者が柔軟性をもったり主体的な遊びが広がる保育環境を行うことが子どもの経験に繋がり意欲にもつながっていくということも再認識する事ができた。
- ・試行錯誤、工夫する姿から好奇心、探究心が育ち子どもの主体性につながる事。
- ・幼稚園での学び、“遊びの楽しさ”や“遊びの方法”、“主体的な関わり”などが基盤となり、小中学校へとつながることがわかりました。

研修記録 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

- ・園内研修の大切さを実感した。
- ・前年度の反省を生かし、記録を統一し、環境を改善することで継続的な遊びがつながるようになった。園全体で記録を取り改善してきたこと。
- ・場所が変わっても環境を考える道筋は同じ、とあり、どんな場面でもPDCAサイクルに沿って考えていったらよいのだと学んだ。
- ・記録などの書き方も統一させしっかりと比較できるようにすることの大切さを学んだ。10の姿と照らし合わせながら、教育的価値を含ませ、今の子どもの姿、そして、私自身が子どもたちに何をどのように体験させたいのかをじっくり考えて主体的となる保育環境を整えていけるよう心がけていきたい。
- ・それぞれの学年で主体的に遊ぶ姿をどうとらえるかを考えておられるところもすごいなあと感じさせられた。
- ・どんなふうに環境づくりを考え、子ども達と一緒に環境づくりをしてこられたのか、そのことで子ども達がどう育ってきたのかが見え、とても参考になった。

- ・子どもが主体的に遊べるように充実するには、
 - ・子どもの実態（遊びに対して主体的な姿、遊びが充実している姿）
 - ・環境に対しての長所、課題→それを活かしたか改善と充実
 - ・主体的な遊びが広がる環境構成を考えて見直しをもって研究を進めていく。
 - ・書式を統一し、共通する項目に視点を当て、子どもの姿を読み取ることで子どもの興味を把握でき、今後の遊びに対しての援助や環境構成に生かすことができる。
- ・園内環境を「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」に照らし合わせて考えることで経験とともに育ちやすい姿と保育教諭の仕掛けや関わり方により左右されやすい姿が見える。
- ・遊びの環境を 10 の姿に照らし合わせて見直すこと、保育教諭の場面場面の関わりが大切で、欠けることなくつながることで保育環境の充実になるということも学ぶことができた。
- ・子どもたちが遊びの中で何を経験し、何を育てていきたいかも大事だが、子ども達は何を学んでいるかをエピソード記録や写真に残していくことは次の保育にも繋がるので、記録を取っていくことはとても大切だと実感した。
- ・園庭の環境を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らして考えておられ、記号にして見える化することで、どんな働きかけや準備によって、子どもの育ちに影響しているのかがとてもわかりやすかった。自分も参考にしていきたいと思った。
- ・遊びが充実している姿を捉えて、学年別のキーワードを見つけている。
- ・幼児期までの育ってほしい姿に照らして考えることで「経験と共に育ちやすい姿」と「保育教諭のしかけやかかわり方によって左右されやすい育ちの姿」があり、社会生活との関わり、道徳性・規範意識の芽生えでは、保育教諭の援助や配慮がより育ちに影響を与えている。
- ・適切な環境→ねらいの吟味、保育者の配置、個・全体の育ち、環境の見直し、道具の配置・数、保育者の援助、子どもの姿、記録・評価　がある。
- ・活動するときや環境づくりを行う際は、10 の姿に照らし合わせることで明確な育ちをみることができる。
- ・実践事例は、子ども達の意欲や探求する姿、楽しい遊びが展開されたことがうかがえ、記録とつながってよくわかった。記録の形式も参考にさせていただきたい。
- ・研究の積み重ね方もとても丁寧で、園庭での活動事例を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らし合わせて考察されていることで、何がよくて、何が足りないかを明確にできてしっかりと次の保育につながる試みがなされているなどと思った。
- ・第五幼稚園は、園庭の遊びの環境を中心に見直し、子どもの育ちや課題点を職員間で共通理解しながら、事例を持ち寄り、PDCA サイクルをしっかりと行われており、素晴らしいと感じた。
- ・園庭環境を「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」に照らして表に図式化され、とても分かりやすかった。保育教諭のしかけや関わり方によって育ちが左右されやすい環境においては、各年次によってねらいが違ってくるし、環境構成の仕方も違うであろうなどと思った。
- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿では、物的環境の充実により、経験と共に育ちやすい姿があり、保育教諭のしかけや関わり方によって育ちが左右されやすい姿もあったりすることが、第五幼稚園さんの発表で知ることができた。

- ・年齢に合わせた保育環境を整え、積み重ねることが子どもの主体性へつながるだろう、という思いで、保育環境を見直され、遊びの充実を考えておられた。「遊びが充実している姿」を捉えられ、年齢別のキーワードがわかりやすいと思った。そして、園庭環境を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らし合わせ、遊びがどの姿の育ちにつながるのか、分類されていた表がとても分かりやすく、細かい分析がしてあり、参考になった。
- ・10の姿には、経験と共に育ちやすい姿と保育教諭のしかけや関わり方によって左右されやすい育ちの姿がある。
- ・評価のための書式を一度作ったあと改善し、更に良いものをつくるという姿勢はとても良いと思う。最初からいいものを作ろうと思うとなかなかスタートできないことがあるが、失敗しても、まずやってみるというところが良いと思った。
- ・まず、発表中の取り組みにおいて、園の環境についての課題、保育教諭自身の課題などをしっかり分析したうえで、環境づくりに活かしておられることがよく分かった。
- ・なんとなくイメージするだけでなく、そのワードの意味を考え明確にし、確認することで、共通理解もぐっと深まったのではないかと思う。
- ・遊びの中で、保育教諭の立てる目標(研究テーマ、思いの共有、目指す子どもの姿)の土台がしっかりしていることが大切。
- ・記録の項目を統一することで、職員同士で、情報共有できる。同じ視点にすることで、保育環境や、子どもの自尊心向上に繋ぐことができる。10の姿を園庭環境に照らし合わせることで経験と共に育ちやすい姿と保育者のしかけの分析や、PDSA サイクルによって、職員が同じ方向性で進めていくことで、子どもの育ちや保育の充実、資質向上に繋がること。
- ・10の姿と照らし合わせて、遊びの経験や学びのきっかけにつながりやすい分野と保育教諭の援助や配慮がより子どもの育ちに影響を与える分野を把握し、保育につなげていく点。
- ・長所と短所を園全体で話し合い改善し、改善した環境について分かりやすく記録しておられた。
- ・保育者の仕掛けに対し、子どもたちの反応が分かりやすく資料にしてあった。自分のクラスの子どもたちに仕掛けたらどうなるのか講義を受けた側もドキドキワクワクしながら拝見することができた。
- ・研修を通して、主体的な遊びが広がる環境作りや保育者の関わりについて学んだ。身近な環境である園庭の見直しや改善の事例から、環境の整え方や保育の実践など参考になった。
- ・園庭という環境に目を向け、充実した遊びになるように研究しておられた。保育や遊びの中で園庭は出てくるが、園庭でどのように繋がりある充実した保育になるのかという視点はあまりなかったので、園庭での視点が私の中で変わったように思う。もちろん、園庭にとらわれずとしているが、園庭環境を10の姿で捉えられるほど工夫されているのは素晴らしいと感じる。
- ・身近な環境である園庭の見直しや改善の事例から、環境の整え方や保育の実践など参考になった。
- ・子どもの気持ちを聞きながら、様子を見て何がほしいかを見ながら、環境をかえていたり、どうすれば子どもがこれ以上楽しめるかを考えたりして計画、実践を子どもと共にしていく事が子どもと大人、お互いの成長につながると思った。この事例は、10の領域のどこにあたると表にして示してあり、わかりやすかった。
- ・「目指す子どもの姿」から、「保育士の姿」を再認識したこと。

- ・自園の環境及び子どもの姿から考えることで遊びが充実している姿をイメージしやすく保育のねらいを考え構成したり、遊びの中での子どもの読み取りに生かしている。
- ・記録の見直しやねらいに対しての評価を日々行っていき、次につなげていくことも改めて大切だと感じた。
- ・主体的に遊ぶために何を記録し、何を見とっていくのかを考えられていた。その中で学年の重点や学年のキーワードを決め、それがどうしたら伸びていくのかをこどもの姿と比較し、学びをとらえられていた。
- ・自園の環境から課題を出し、その環境を生かす主体性を育むための環境の在り方についての研究は、園らしさが見られた興味深い発表だった。園庭の環境を見直し、ものの精選、配置の変化などを行うことで、子どもたちの遊びの変化やいきいきと姿を拝見することができたように思う。その中で、10の姿に照らし合わせ園庭の環境を見直したり、結果を見出したりするところが素晴らしいと思った。

【本研修を受講して、今後の保育実践に活かしたいことについて】

環境について

- ・自分の保育の振り返りでは、個々の見取りを丁寧に行い、一人一人の子どもの今何が必要なのか考え、環境の再構成を丁寧に行っていきたい。
- ・次の日も遊びの続きが出来るようにするための環境も考えていきたい。
- ・環境に対して「こんな保育室だったらな」などないもののことを考えていたが「何があるか」ではなく「この環境で何を体験するのか」に着目し、子ども達の姿から今どのような体験が必要か、その体験をするために何が必要なのか、今までの考えを改め遊びが充実できるように環境を構成していきたい。
- ・集団の育ちだけでなく、個の育ちにも着目し、様々な場所や空間を生かした環境構成・援助を考え、遊びを充実させていきたい。
- ・子ども達が自分達で考えて「これやってみたい」「挑戦してみたい」と思えるような、環境作り(素材集め、時間の確保など)をしていきたい。
- ・今までの園庭などでの戸外遊びの際の様子を振り返ると、いつも単発的な遊びとなることがほとんどであったため、子ども達の遊びの様子や園庭の環境をもう一度見つめ直し、遊びを展開させていきたい。
- ・戸外遊びとなると決まった遊具や玩具と限られてしまうことが多いが、子ども達の遊びが充実するよう、道具や環境を工夫していきたい。
- ・自分の働いている園も園庭が広く砂場が大きい。同じ遊びになってしまいがちであるが、新たな遊びの提案や子どもが遊びこめるような環境構成を心掛けたい。
- ・試行錯誤できる、選択できる環境にしていく。
- ・外遊びだけでなく、室内遊びの時にも、選択肢を増やして子ども達が「遊びたい」と思えるような環境設定を行っていきたい。

- ・自然をいかした環境設定。
- ・テーマを明確にし、共通理解しやすい環境を作っていきたい。
- ・子ども達の成長や今の発達段階を踏まえ、子ども達自身がこうしたい、やってみようかなと思える環境作りをしていきたい。
- ・育ててほしい姿に合わせて考え、子ども達の姿を想像しながら遊びを仕掛けていきたい。
- ・その日の子ども達の様子を見て、少しずつ遊びの環境を整えたり、子どもの小さな変化に気づいて援助を行い環境設定の工夫をしていきたい。
- ・子どもの姿に合わせて、道具を遊びの場に置いてみたり、大きさの異なるものを様々用意したりするなどして、子ども達が遊びを構築していけるような環境を作りたい。
- ・長所と課題を見つけるということも園内、園外の環境構成には大切だと改めて感じたので、自園でできることを発表園とも比べながら考えていけたら良いと思う。
- ・「自由遊びの充実」は、やはり保育教諭が子ども達の日頃の遊びを見取り、「こうしてみようかな」という保育教諭自身が主体的に考えて試行錯誤し、保育室の環境を整えることが重要だと思い、保育で実践していきたい。
- ・子ども主体の遊びとなるようにしっかりと遊びの様子を読み取り、少しずつ環境構成を行っていききたい。(変えていききたい)
- ・子ども達の目線に立って、一緒に遊びの環境を考えたり、大掛かりなことをしなくても子ども達の様子から少しずつ遊びが広がるきっかけをつくる環境を整えたりすることを大切にしていきたい。
- ・今の子ども達に育てたいこと、遊びの中でこんなところに気づいて生活に活かされてほしいなど保育者が考えを精選し、遊びも精選した環境を作ることを意識し、保育にあたっていきたい。
- ・遊びを通して子ども達が新たな気付きや発見がしやすい環境構成を設定し、クラスみんなで遊びを発展していけるような保育をしていきたい。
- ・保育者の意図や計画と違った道具の使い方であったり、用具の使い方であったとしてもそれが大けがをするようなことに結びつかなければそれを受容し、また新しい遊びへと繋げられるきっかけとして、保育者も新しい環境の設定を考えていきたい。
- ・自分の保育実践も日々見直し、主体性を大切にしているか、保育者の思いが強すぎていないか、主体性を育むための適切な環境であるか等、考察しながら保育できるようにしていきたい。
- ・子ども自身が遊びや活動の中でも自ら選択出来る環境を作り出し、楽しめる遊びの時間や活動をより多く考えていきたい。
- ・環境を整えるためにはまず子どもの姿から環境を見直し、良い点悪い点をふまえて出来るところから変えていくといいと学んだため、子ども達の姿から保育室の環境を見直していきたい。

環境構成(人的環境)

- ・教師だけが考えるのではなく、子ども達と話をしたり、子ども達自身で作りあげていけるよう支えたりしながら、時間をかけて、人や物と関りを十分に持ちながら遊びを展開していきたい。
- ・子どもの興味や関心を見逃さないよう、一緒になって遊ぶだけでなく、環境を一緒に整えたり、アイデアを出し合ったりしながら関わっていきたい。

- ・本園の園庭での遊びを見直し、より意欲的に遊び込めるよう、環境設定であったり言葉かけも含めた、人的環境だつたりを整えていきたい。
- ・今までは主に、保育者の思いを環境にこめ、子ども達の育ちに繋がるようにしていたが、子ども達と一緒に試行錯誤しながら環境を整えることも意識していきたい。
- ・保育教諭も観察や見守りを行うだけでなく、一緒に楽しみながら子どもの育ちを見守り、発見を共有していきたい。
- ・遊びに使ったものや作ったものなど、ものを大切にすること、感謝の気持ちが持てるよう声掛けを行っていききたい。
- ・友達同士の関わりが深まるように保育教諭も一緒に遊んだり、必要に応じて仲介していききたい。
- ・子どもの「できた」「うれしい」といった気持ちに共感し、出来た時の達成感を味わえるようにする。
- ・何度も挑戦する姿を見守り、必要に応じて一緒に考えたり試してみたりする。
- ・場所だけ決めてもそこに途中のものが山積みになり、遊ぶものが減ったり片付けると怒ったり、約束をどうしていくのかを子ども達と一緒に考えながら良い方法を考えていきたい。
- ・物的環境もちろんだが、教師自身の人的環境、関わり声かけなども工夫し、子どものための環境にシフトチェンジしていきたい。
- ・遊びが盛り上がり、「明日もしたい」という意欲的な気持ちを持つことができるよう、子ども達の発見やアイデアも大事にしながら関わり、子ども達の様子を見ながら一緒に考えたり様子を見守ったりして、遊びの経験の積み重ねも出来るようにしていきたい。
- ・継続した遊びを積み重ねていくことが子ども達のひらめきや工夫、試行錯誤する姿に繋がることを知り、同じ遊びでも展開や発展の援助を行ったりきっかけを作ったりしていきたい。
- ・保育教諭の援助や配慮が育ちに影響していくため、人的環境として育てていけるように子どもと関わっていききたい。
- ・保育者が主導で遊びの環境設定を行うことも当然ですが、子ども達と一緒に「作って（育てて）遊ぶ」という経験を取り入れていきたい。
- ・子ども達自身が気づいたことや発見したことを周りのお友達にも情報共有していき子どもの自信にも繋げていけるようにしたい。
- ・保育教諭自身も子どもと一緒に遊びを楽しむことが、よりよい環境づくりの基になることを心にとめて保育にあたりたい。
- ・驚きや発見を楽しむことで、さらに好奇心が高まり、遊びの意欲へと繋がっていくため、その姿を見逃さず思いをしっかりと共有していきたい。

環境構成(物的環境)

- ・素材にもこだわり、丸太や木を使った道具を作るなどし、本物に触れさせる体験ができるようにする。
- ・野菜の収穫についても、未熟なものを採ろうとする子ども達は私が勤めている園でも多くいるため、採れ頃の色や大きさを視覚的に分かるようにする工夫も取り入れていきたい。
- ・作った物をおいておけるコーナーを検討していこうと思う。

- ・ウォータータンクの設置は子どもが自由に調整しながら水を使えるため良いと思ったため取り入れていきたい。
- ・安全面への配慮から、手作りの遊び道具を避けていたところがあったので、逆に安全面への意識を高めるためにも検討していきたい。
- ・自園の環境を見直して、子ども達と花を植えたり育った花で自由に遊べる工夫をしてみたい。
- ・様々な種類の素材を準備できるようにしていきたい。
- ・まずは、中庭遊びに使えるものを用意、調達するところから始めなければいけないと感じた。
- ・使えなくなった道具を片付ける場所を設置する事で言葉だけでなく視覚でも物の大切さを感じられると感じ、子どもにとってとても良い学びになると感じたため、保育の中に取り入れて実践を行っていきたい。
- ・戸外遊びで遊びが充実するであろう用具や材料の確保や準備をし、遊びの充実を図りたい。

保育者の思い

- ・子ども達がどのようなことに興味を持っていて、これからどんなふうに遊べるようにしていきたいか、子ども達との活動から読み取り、次につながるように援助や準備をして遊びを継続できるよう、またそこから子ども達の成長を見取り、より主体的に遊ぶことができるよう、工夫や環境づくりを意識してできればと思う。
- ・今の学年で遊んでいることが次の学年、その次の学年…とつながっていくことに改めて気づき、遊びを十分に楽しめる、遊びこめる環境を展開していくことの大切さを感じた。
- ・子どもが何に興味を示しているのか、何に興味があるのかなどその子を考えられるようにしていきたい、よりよい保育をしていきたい。しかし、一気にクラスの子どもを見ることは難しいと感じるため、まずは少人数を見て進めていきたい。
- ・子どもの遊びが継続するために自分自身の視点を少し変えていきたい。
- ・ただ遊ぶだけではなく、何かねらいを1つ持ち、個の姿、全体の姿を捉えていきたい。
- ・誰もがたのしかった一、やった一、と満足できる遊び、生活ができるような場を届けたい。小さなことを大事にしたい。
- ・今より子どもの一瞬一瞬を大切に、未来に繋げていける保育を行っていきたい。
- ・またやってみたいという気持ちになる保育をするための環境、援助が、保育者の意図だけでなく、幼児の主体性とバランスよく絡み合うようにしていきたい。
- ・今を大切にすることが、未来に繋がることだということを意識し、これからの保育をしていきたい。
- ・「楽しかった」遊びをまた明日もやりたい。昨日は見てるだけだったけど、今日はやってみようかな。等明日につなげる保育を心掛けたい。
- ・子どもの心の動きを捉えながら、遊びや環境を準備し、主体的な保育が出来るように頑張りたい。
- ・すべてにおいて子ども主体になるような環境づくりや指導・援助のありかたを考えていきたい。
- ・子ども達一人一人が主体的に遊ぶためには、保育教諭も主体的に取り組むことができるようにしていきたい。

- ・「適切な環境とは何か」を学ぶことができたため、子ども達一人一人に今どんな体験が必要なのかを考え、場所や時間の取り方、遊具や用具の工夫、子ども達への関わり方をしっかりと考えていきたい。
- ・保育教諭の思いが先走ってしまいがちですが、まずは子どもを観察すること、子ども理解から丁寧に行っていきたい。
- ・子どもが今何に興味があるのか、何に行き詰っているのか、何に意欲を示しているのか等、今の子ども達にどんな体験が必要かをじっくりと考えていきたい。
- ・お店屋さんごっこをするにしたら、3歳児への仕掛けと4歳児への仕掛けは違うので各クラスにあった子どもの気持ちを仮定し、考えていきたい。
- ・子どものつぶやきを丁寧に聞き、そこから捉えていくことや保育教諭の中で思いをしっかりと持って試行錯誤していくこと、子どもの遊びを丁寧に見ていくこと。
- ・教育を行う上で、子ども達がやりたいと思っていること、興味をもっていることを十分に理解し、必要な環境構成を考え、工夫したり、保育教諭の関わり方を改めて考えたりしていきたい。
- ・子ども達の主体性やドキドキワクワクの気持ち、試行錯誤していく考える力を育てていけるようにしたい。
- ・遊びの際の保育環境や関わりもしっかりと考え、今楽しんでいる遊びがどのような姿の成長に繋がるのか等、今後に繋げていくことができるようにしていきたい。
- ・保育者の思いやねらいが強くなってしまいがちですが、その視点を保育に活かしていけるように取り組んでいけたらと思う。
- ・職員自身の主体性が重要だと感じたので、職員自身が主体的に動く環境を作りたい。
- ・遊びを支える環境として、何に興味があるのか、何に意欲があるのか、何に行き詰まっているのか、今どんな経験が必要か、保育者の意図と計画、子どもの主体性をバランスよく絡み合わせること。
- ・子ども達の姿や興味関心から遊びが発展していくよう、時間と空間にゆとりを持って保育を展開していきたい。
- ・様々な遊びの場面で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中のどの姿が育つのか、どのように保育をしたら育ちやすいのかを考えながら、保育に取り組んでいけるといいと感じた。
- ・遊びの中で、子ども達が楽しいと思えるような遊びの充実、もっとしたいと思えるような心揺さぶられる経験は、保育者がどれだけ子どもの姿や思いに寄り添えているかだと思うので、意識して関わってきたい。
- ・一つのことについて着目し、焦点を当てて子どもの姿を読み取り、今後の環境構成や援助にいかしていきたい。
- ・子どもが主体となりながら、充実した遊びを展開していける保育を行うために、どんな子どもの姿を望むのかを明確にしながら、目の前の子どもの姿に向き合っていきたい。
- ・子どもと共により良い環境を作り出していく楽しさを感じられる保育者になっていきたい。
- ・子ども達の主体性を育てる中で、保育者の意図をしっかりと確認し、どこを伸ばしたいか、どのようになったら達成されるのか等、ねらいをもって保育をしていきたい。
- ・その環境に「何を留意するのか」よりも、子ども達がそこで「経験したいこと・させたいこと」にも視点をもって、取り組めるようにしていきたい。
- ・日々の保育の中で「何を体験するか」に着目しながら、個々にあった経験を増やしていきたい。

- ・日々子ども達の育ちをしっかりと吟味し、失敗を重ねながらも前向きに充実した時を過ごせるようにしていきたい。
- ・主体性ばかりに重点を置いて保育教諭の関わりが薄くなっていないか、反対に保育教諭の意図が強く出すぎていないか、そのバランスもしっかりと意識しながら遊びを進めるようにしたい。
- ・子ども達が自分達で遊びを考え展開していくことができ、継続することで満足感や充実感が味わうことができるようにしていきたい。
- ・保育者の意図や計画と違った道具の使い方であったり、用具の使い方であったとしてもそれが大げがをするようなことに結びつかなければそれを受容し、また新しい遊びへと繋げられるきっかけとして、保育者も新しい環境の設定を考えていきたい。
- ・自分の保育実践も日々見直し、主体性を大切にしているか、保育者の思いが強く出すぎていないか、主体性を育むための適切な環境であるか等、考察しながら保育できるようにしていきたい。
- ・子ども自身が遊びや活動の中でも自ら選択出来る環境を作り出し、楽しめる遊びの時間や活動をより多く考えていきたい。
- ・子ども達の主体性を育むために、明確なテーマの見直しと視点を絞って日々の保育に取り組んでいきたい。
- ・砂場遊びでは水を使って遊ぶ事があまりないため、今後は一日だけでなく繰り返し遊べる日を確保し、また新しい道具や子ども達が遊びたいと思える材料を十分に使って、遊びに取り組みたい。
- ・今回の研究発表で得られた様々なヒントを、自園の日々の取り組みや園内研修に活かしていきたい。
- ・自園での研究の取り組みや振り返りの参考にしたい。
- ・子ども達が継続的に遊びたいと思えるためにはどうしたらよいか考える。

職員との連携

- ・全職員での園内研修をすることの大切さを感じ、必ずしないといけないと感じた。
- ・職員間で共通理解をしておく事で、沢山の知識と知恵の中で環境を更に深められるということが分かったため、一人で悩まず、先生方と共有していくことを大切にしたい。
- ・職員自身の変化や、多忙、時代の流れなどにより、意欲をもって取り組むこと、充実感を感じる事が難しくなっている中、力を合わせながら楽しく保育に取り組めるようにするための方法も同時に考えていけたらと思う。
- ・課題の出発点を共有すること。
- ・目指す子どもの姿を保育者同士で話し合い、形にしていくために協力していくことが必要であると思った。そして実際に活動をやっている中でどのような状況なのかその都度情報を共有し一緒に発達の段階を喜びあっているようにしたい。
- ・何を育てたいか、ねらいをはっきりさせるために話し合いを重ねていきたい。
- ・同じ方向性で保育を行っていく。
- ・実践したことが次の保育に活かせるようにしっかりと PDCA サイクルを行うと同時に、職員間の連携を密にしていきたい。

- ・園全体で環境構成を考え、学年・クラスだけでなく、縦の繋がりも考えながら環境設置を行っていきたい。
- ・園庭の環境構成を見直し(子ども達が遊びだしたくなる環境、明日も続きがしたくなる環境)を職員間で行いたい。
- ・PDCA サイクルをもう一度研究会に取り上げ、職員の資質向上を目指したい。
- ・問題点や意見、どうするべきなのかを保育者間で共通理解し、園全体で共有し、問題解決へとつなげたい。
- ・自分の園の長所、短所について話し合い環境を整えていきたい。
- ・保育の目的について職員で共通の認識を持ちつつ、各年齢に沿った内容になっているか検討したり、学年があがっていく中での遊びの連続性についてもより意識して考えていきたい。
- ・適切な援助や環境を整えていくために、教師同士の共有する姿を大切に、ねらいがぶれることなく、子どもと共に楽しみ、良い意味での先取りができるよう、実践に活かしていきたい。
- ・職員研修として考えを出すのもいいと感じた。
- ・環境を通して行う教育保育であることは理解しているが、時に教師主導になっていることがある。それを気づいて声を掛け合い互いに高めあえる職員集団にしていきたい。
- ・日々の保育の中で、子ども達と保育者同士での信頼関係を大切に、環境作りを園全体で協議する時間を設けたい。
- ・物的は難しくても人的環境の保育者の関わり方は意識の持ち方で変えられると思うので、若い世代の先生からベテランの先生までの知恵を出しあって、育ててほしい10の姿を見据え、同じ方向を向いて環境を見直すことが大切だと思えるような園内研修をしていきたい。
- ・何を経験させたいか、どういう風にすれば「また遊びたい」という気持ちになるか職員間で話をして保育を進めていきたい。
- ・子どもの育ちはそこでの遊びのみならず、様々な場所で育つものであり、保育室や園庭だけでなく、保育者全員、園全体での途切れない取り組みをしていきたい。
- ・園のありかたや目指していきたい部分をしっかり見据えながら、日々資質向上を目指し環境を整えつつ、子ども達の力を育ていける保育者集団でありたい。
- ・子どもが好きな遊びが広がるように共有していくことが大切であると感じた。

記録について

- ・よりよい環境づくりのためには、しっかりと遊びを観察し、記録を取り、評価していく。更には、その評価を振り返り、次の活動に繋げていきたい。
- ・変化が分かるよう振り返り、まとめることも重要だと感じたため、改善した点、子ども達の姿を目で見える形にし、経験が繋がっていくよう、考えていきたい。
- ・友達と一緒に日々の積み重ねの中から「出来た」「またやってみよう」などの成功体験を積み重ねられるような関りや日々の成長の記録を大切にしていきたい。

- ・活動をする上で評価や記録は大切なので、育ってほしい姿、今の姿、保育教諭の援助や配慮などを残し、見直して改善していくことが大切だと発表を見て気づいたので、実践していく。
- ・子ども達が遊び込めて、主体的となる明日につながる保育になるために表にしてまとめたり、試行錯誤しながら環境を整えていきたい。
- ・記録の作り方など参考にさせていただきたいと思った。
- ・保育者の計画、記録、評価を日々振り返り、改善を行っていく。
- ・どこで遊びが充実していると感じるか、これから記録をつけるにあたって自分自身も着目していきたい。
- ・振り返りをするときに子ども達のつぶやきを思い出しながら書いていくよう工夫しようと思った。
- ・環境変化図や事例を参考に、今後の保育に活かしていきたい。
- ・記録の項目を共通にし、焦点をあてて子どもの姿を読み取り、環境構成や援助に生かしてみる。
- ・心情との関わりや変化、その環境や背景などについてまとめ、今後の保育にしっかりといかすこと、繋げていくことができるようにしていきたい。

保護者・地域との関り

- ・コロナ禍で、保護者とも地域の方も距離を置きがちになっている今日ですが、保育の協力者としてのつながりを持つことは大切だと思った。
- ・地域の方や保護者に協力していただき、園庭環境に活かせる木材などの協力を呼び掛けることができればと思う。

改善点

- ・まず、現在の園の遊びの環境や子どもの姿等を把握し直したい。
- ・園の遊びの環境について掘り下げることはあまりできていなかったなので、そこを把握し直し、自園の強みを再認識し保育に活かしていきたい。
- ・心揺さぶられる感動体験をするために、まず、真似をすることから始めてみたい。
- ・園庭の環境構成を見直す機会を設けたい。
- ・記録の取り方を見直していきたい。

【ご意見・ご質問及び回答】

【その他】